

## Nature Preschool(森のようちえん) ②

お話 : Ms.Audrey Noga

レポート : 浅井めぐみ

### ★概要

2012年からスタートしたケロウナ市より初めて認可を受けたアウトドア型保育を行うプリスクール、森のようちえん。NPO クラブハウスが運営している。

全敷地面積は、12.5エーカー (50.587平方メートル)、そのうち5エーカーがフェンスに囲まれた活動できる場所、残りの7.5エーカーが自然環境をそのまま残した森となっている。

7か所あるデイケアの施設から、決まった曜日に2歳半～5歳までの子が、週1回来るようになっている。プリスクールとしては、週3日間で午前中のみ行われている。その他の時間は別プログラムを行ったり、小学生向けに開放されたりしている。学校が休みの時も解放されており、特に夏休み、春休みなどの利用が多い。場所の貸し出しサービスも行っている。

乳幼児～中学1年まで、約400名が現在参加しているとのことだった。

運営としては、年に3万ドルの補助金が州から出ている。

また、一人あたりの利用料は、月300ドルで、スナック、バス移動費、ランチを全て含んだ代金である。

### ★活動内容

登園の後、敷地内の内、フェンスで囲まれた5エーカーのアクティブエリアで、子どもたちは自分が今やりたいことをそれぞれ選

んで、好き好きに活動する。

園が用意したプログラムやアクティビティもあるが、強制的に参加を促すものではなく、参加したい人だけ参加するということになっている。

エリア内には、以下のものがあり、子どもたちが自由に使えるようになっている。

#### 道具

シャベル、台車、バケツ、自転車、ヘルメットなど。

○できる限り本物に近い形にすることで、子どもたちも大事に扱ったり、真面目に活動したりできるようになっていると話されていた。

○木の枝なども、十分遊び道具になりうる。

#### 遊具や備え付けのもの

ブランコ、坂の上のロープ、ミニハウス (3つほど)、メロディベル、水道

○水は子どもたちに必須で、どろんこ遊びに使う子が多くいた。

○子どもに必要だと思われるものはどんどん増設されている。2度の視察の間に、木が増えたり、日陰になる屋根付きの建屋が作られたりしていた。

#### 自然そのものが遊び場

坂、果樹園、畑、切り株

○切り株を飛んで遊ぶ子が多くいて、それだけで生き生きと活動する姿が見られた。

○畑や果樹園を手入れしている大人の様子を見て、自ら興味を持ったり、お手伝いをしたりする子どもも多く見られた。

この園での約束事は、ほとんどないということだったが、「大きなけがをしないように」ということは、スタッフの方々の心がけていることのようにだった。

危ないことをしそうになった時には、注意を促すよりは「けがをしないようにね。」と声をかけておられ、過度な見守りや注意などは控えている。この姿勢は一貫していた。

また、子どもたち自身も、自然の中で思う存分体を動かして遊んでいるので、ちょっとのけがは気にせず、たくましく育っているように見受けられた。

## ★感想

### ①自然体験の可能性

ここに来る子どもたちは、本当に生き生きしている。よく話にも挙げたのは、部屋の中では、問題のある子として見られていた子が、ここに来るとそんなことは全然感じられないほど生き生きと活動している姿が見られるということである。

私が見ている限りでも、ほとんど、もめご

とやハプニングがなく、子どもたちは自分のやりたいことに夢中で、満足そうに活動していた。

安心できる空間、のびのびとあるがままの自分でいられる空間として、自然のもたらす影響は大きいことを実感した。

また、異年齢の子でも話をしたり、困っていると協力している子がいたり、自然な流れでつながることができており、友達同士の関わりを多いということにも驚いた。

学校のように決められた空間で、決められたグループで、というのは、もしかしたら、本来子どもが持っている大いなる可能性を排しているということも危惧しなければならない。

### ②これからの見通し

また、この園のすばらしさは周りを巻き込みながら、価値観を新たに変えようとしているところにある。まだまだ、「森のようちえん」が知られていなかったり、正しく受け止められていなかったりすることが多い中、自分たちの考えを発信することで、協力者や理解者を増やす努力をされていた。その取り組みがきっかけとなり、教育に対する見方が変わっていき、一人一人の子どもたちに合った教育を行えることにつながっているように感じられ、日本でも取り入れることができたらと強く思った。

